

【調 査】

親の働き方と子供の家庭教育

白井恵美子・小林美樹

本論文では、日本において、就業している母親と専業主婦の母親との間で、子供と共に過ごす時間に差異があるのかどうか、また、母親、及び、父親が、子供と「充実した交流時間(quality time)」を過ごすことができているのかなど、親の働き方と子供の家庭教育との関係を検証した。具体的には、子供の勉強を親が見ること、習い事、家庭での食事、幼い子供への本の読み聞かせなどと、父親や母親の属性との関連があるのかについて、「くらしと仕事に関する調査(LOSEF)」を用いて考察した。分析の結果、母親がフルタイムで働いている場合、母親が子供の勉強を見る頻度は下がるが、それを補うように、父親が子供の勉強を見る頻度が高くなっている。しかし、両親合計では、子供の勉強を見る頻度は全体としては低下しており、母親が子供の勉強を見る頻度が下がる分を父親がある程度補ってはいるが完全には補っていない。父親が長時間労働の場合、子供の勉強をみる頻度、及び、共に食事をする回数が少ない。また、幼い子供への本の読み聞かせは、学歴の高い父親・母親の方がより熱心に行っている。従って、父親が長時間労働を改善し、仕事と生活の調和を図るならば、より一層子供と共に過ごす時間が増える可能性がある。そうならば、夫婦の家事育児の分担時間が母親の育児負担を軽減させる方向へ変化することになり、母親の就労を促進する可能性がある。
JEL Classification Codes: J13, J16, J22

1. はじめに

幼少期の子供への人的投資、とくに認知・非認知能力への投資は、子供の成長後の生産性に影響する(Heckman, 2013)。とりわけ、親が幼い子供と充実した交流時間をもつことは、子供の長期的な成長につながる可能性がある。

本論文では、日本における親の働き方が子供と共に過ごす時間との関係でどのような違いをもたらしているのかを追求する。一般的に、親子が共に過ごす時間は、専業主婦の方が就業している母親よりも長いと考えられる。しかしながら、実際の家庭生活において、専業主婦と就業している母親とを比較する場合、親子の充実した交流時間(quality time)を過ごすことにおいてどのような差異があるのか、それを正確に把握することがまず必要である。この研究を進めるために、ここでは、親子の充実した交流時間を代表するものとして、「親が子供に本の読み聞かせをすること」、「子供の勉強を見ること」、及び、「子供と一緒に食事をする」とする。実際、Heiland *et al.*(2014)らの研究によると、米国ではフルタイム就業している母親の場合、親子の充実した交流時間がそれ以外の母親と比べて少ないことが明らかになっている。

本論文では、特別推進研究「世代間問題の経済分析：さらなる深化と飛躍」(研究代表者：高山憲之氏)が実施した「くらしと仕事に関する調査」(Longitudinal Survey on Employment and Fertility; 以下 LOSEF と略す)を用いて、日本では、親子の充実した交流時間が専業主婦と就業している母親との間でどのように異なっているのかを検証したい。とくに、子供と共に過ごす時間が長いとみられる専業主婦の場合、彼女たちの時間は本当に子育てに有効に活用されているのか、就業している母親の場合と対比して明らかにしたい。さらに、父親の就業形態の違いが、各人の家庭生活の中で、父親と子供の充実した交流時間にどのような影響があるのかを考察する。どのような親のもとに生まれ、どのような家庭環境で育てられるかは、幼い子供にとっては完全に外生的に決定されることで自分では対処できない事柄である(小塩 2013)が、子供が幼少時代をどのように過ごすかの指針を提示することは有用であり、そうした努力が実れば、子供が成長してからの労働市場でのパフォーマンスにも影響すると考えられる(Heckman 2013; Oshio *et al.* 2010)。

近年、日本においても、親の子育てへの関わり方が子供の学習時間にどの程度影響しているのかについての研究が、Matsuoka, *et al.*(2015a, 2015b), Na-

kamuro *et al.*(2013)らによって精力的に進められている。これらの研究は、「子供のテレビ視聴」、あるいは、「子供に対し学習習慣をつけるよう動機づける親の姿勢」などが、実際の子供の勉強時間とどのような関係にあるのかを分析している。そして、テレビやゲームの時間が子どもの勉強時間を減らす影響は非常に小さいこと、父親が「勉強を見ること」や、母親が「勉強をする時間を決めて守らせていること」が、子供の学習時間を長くすることを明らかにしている。本論文では、親が「子供の勉強を見ること」ととどまらず、「子供への本の読み聞かせ」や、「子供と一緒に食事をする事」それに、「習い事」などが、父親母親双方の働き方とどのような関連があるかについての分析をすることで、新しい視点を加えている。

本論文の分析結果として、父親が長時間労働の場合、父親が子供の勉強をみる頻度や、共に食事をする回数が少なくなっている。母親がフルタイムで働いている場合、母親が子供の勉強をみる頻度は少ないが、夫である父親が子供の勉強をみる頻度は多くなっている。しかし、両親合計で子供の勉強を見る頻度は、専業主婦と比べて、全体としては低下しており、母親が子供の勉強を見る頻度が下がる分がある程度父親が補っているが完全には補っていない。なお、本の読み聞かせの頻度が多いのは、学歴の高い父親・母親の場合であることが観測される。これらの結果から、父親が長時間労働を改善し仕事と生活の調和を図るならば、①父親と子供との充実した交流時間が増加する、②母親のフルタイム就業を促進する(すなわち、家事育児負担時間が変化することにより、母親の育児負担を軽減させる)などの可能性)があることを示唆するものと考えられる。

本論文の構成は以下のとおりである。第2節ではLOSEFについて概観しデータの特徴を述べる。第3節では子供の生活と親の就業に関する実証分析を行った結果を述べる。第4節は結論である。

2. データ

2.1 「くらしと仕事に関する調査(LOSEF)」について

「くらしと仕事に関する調査」(Longitudinal Survey on Employment and Fertility; 以下LOSEFと略す)は、日本学術振興会の科学研究費補助金・特別推進研究「世代間問題の経済分析：さらなる深化と飛躍」(研究代表者：高山憲之氏)が実施した全国

規模のアンケート調査である。LOSEFでは、就労、婚姻、出生行動、子供の育成状況について調査対象者に質問、回答を得た結果に基づき、少子化の要因を分析し、有効な対応策を追求、立案することを目的としている。

2012年に実施した第1回LOSEF調査では、調査会社インテージ社に登録しているモニターの中から、平成22年国勢調査の居住エリア×年代×性別、及び、平成19年就業構造基本統計調査の有業者/無業者比率に基づく人口構成比率に応じてサンプル割り付けを実施し、サンプルを抽出した。

年齢が20歳から49歳の男女12,000人に対して、まずLOSEF調査への協力の意思を確認し、7,282人から本調査に協力するとの回答を得た。調査票は、このうちランダムに5,000人に質問票を2012年9月に発送し、4,787人から回答を得た。なお、この第1回LOSEF調査では、本調査に先立ち、パイロット調査を同年(2012年)2月に実施した。その調査手法は、本調査と同様であり、パイロット調査への回答者は2,114人であった。本調査とパイロット調査を併せた回答者は6,901人であった。第2回調査は、第1回調査の回答者に対し、2014年秋に調査を実施し、5,905人から回答を得た。

本研究では、「くらしと仕事に関する調査(LOSEF)」を用いて、子供の課外活動、勉強を親がみること、家庭での食事、及び、幼い子供への本の読み聞かせなどが、父親や母親の属性とどのような関連があるのかについて考察する。サンプルは既婚男女に限定し、彼らの15歳以下の子供について分析を行った。それらの15歳以下の子供は、第1回調査で4,530人、第2回目で4,189人である。

LOSEFでは、父母の属性として、年齢、学歴、就業状況、年収、労働時間などの情報がある。また、子供の属性として、年齢、就学状況、兄弟の構成、生活状況を、すべての子供について調査している。家庭の背景として、子供からみた祖父母との同居の有無、居住地などの情報がある。

「習い事」については、第1回と第2回調査において、学習塾、お稽古事、部活動、スポーツ教室、スポーツクラブ、通信添削、児童館、放課後児童クラブへの参加状況を質問した。「子供の生活変数」に関しては、第2回調査において、「家庭での勉強を親がみる(母親/父親)」、「親子揃っての食事(母親/父親)」、「本の読み聞かせ(母親/父親)」という項目について質問した。本研究では、これらの親の

表1. 要約統計量

	平均	標準偏差
母親		
母親年齢	39.45	6.368
母親高校卒未満	0.021	0.144
母親高卒	0.351	0.477
母親短大高専	0.390	0.488
母親大卒	0.238	0.426
母親就業ダミー	0.579	0.494
母親パートタイム	0.346	0.476
母親フルタイム	0.225	0.418
父親		
父親年齢	41.22	6.942
父親高校卒未満	0.037	0.189
父親高卒	0.322	0.467
父親短大高専	0.165	0.371
父親大卒	0.476	0.500
父親無職ダミー	0.015	0.120
父親週60時間以上労働	0.309	0.462
居住形態他		
所得(対数値)	6.333	0.637
祖父母同居	0.019	0.135
子供		
小学校入学前	0.431	0.495
小学校低学年	0.189	0.392
小学校高学年	0.203	0.402
中学校	0.176	0.381
子供数2人	0.537	0.499
子供数3人以上	0.309	0.462
習い事		
学習塾	0.199	0.399
お稽古	0.221	0.415
部活	0.086	0.280
スポーツ教室	0.244	0.429
スポーツクラブ	0.108	0.311
児童館	0.069	0.254
通信添削	0.111	0.314
放課後児童クラブ	0.027	0.162

子に対する生活に密着した行動(変数)が、親の働き方とどのように関連しているのかを調べる。

厚生労働省の21世紀出生児縦断調査においても、親の子供の学習への関わり方について、いくつかの質問をしている。調査対象となっている平成13年生まれの子供に絞って、母親・父親の家庭学習(宿題を含む)への関わり方について聞いており、「勉強をするように言っている」、「勉強をする時間を決めて守らせている」、「勉強を見ている」、「勉強をしたか確認している」を質問し、「よくある」、「ときどきある」、「ほとんどない・まったくない」と回答を得ている。特に、Matsuoka *et al.* (2015)によると、父親が子供の「勉強を見ている」、母親が「勉強を

する時間を決めて守らせている」など、親が子供の勉強に強くコミットしていることが、子供の実際の勉強時間と正の関係にあることを明らかにしている。そのような既存研究の結果からみても、LOSEF調査における親が子供の勉強を見る「頻度」に注目することは基本的に的確な視点であるといえる。なお、21世紀出生児縦断調査においては、小さい子供に対する「本の読み聞かせ」については質問していないが、LOSEF調査においてそれについて聞いているのは、読み聞かせは子どもの想像力を豊かにし、情緒的発達を促す、言語能力を刺激すると指摘されている(Trelease, 2013)など、重要性を認識するからである。なお、LOSEFにおいては、勉強や読み聞かせの「頻度」について聞いているので、結果を年換算ができる利点がある。

食事に関する質問は、21世紀出生児縦断調査においては、普段の朝食と夕食の取り方について、「家族と一緒に食べる」、「子供たちだけで食べる」、「ひとりで食べる」、「食べない」を尋ね、「ほぼ毎日」、「ときどき」、「ほとんどない・まったくない」という選択肢が示されている。こうした質問や選択肢の場合、例えば、「家族と一緒に食べる」という聞き方では、「家族」というのが父親か母親か分からないが、LOSEF調査では、父親か母親、どちらの親と食事をしたかまで聞いており、より詳細に分かるという利点がある。このような、LOSEF調査による他の調査と異なる特有の利点を活かしつつ、本分析にとりくみたい。

2.2 データの概要

はじめに、LOSEFの特徴について、基本統計量(表1)から概観する。15歳未満の子供をもつ親達の平均年齢は、母親39.5歳、父親41.2歳である。母親の学歴は、短大・高専卒が39.0%と最も多く、次に高卒が35.1%、大卒が23.8%と続く。フルタイム就業(週労働時間35時間以上)の母親の割合は22.5%、パートタイム就業(週労働時間35時間未満)の母親の割合は34.6%であり、半数以上の女性が就業している。父親の学歴は、大学・大学院卒が47.6%と最も多く、次いで高校卒が32.2%となっている。ほとんどの父親が就業しており、中でも、長時間労働(週60時間以上労働)と回答している人は30.9%であった。

子供については、小学校入学前の幼児(未就学児)が43.1%、小学校低学年(1年生から3年生)が

18.9%, 小学校高学年(4年生から6年生)が20.3%, 中学生が17.6%である。子供数(きょうだい数)は、2人53.7%, 3人以上が30.9%であった。

子供の習い事については、学習塾(英会話教室も含む)、お稽古事(ピアノや習字等)、部活動、スポーツ教室(水泳、体操等)、スポーツクラブ(サッカーや野球などのクラブチームに所属)、児童館、放課後児童クラブ、通信添削、などがあり、各参加状況が集計されている。子供の習い事で最も多い活動は、スポーツ教室の24.4%であり、次にお稽古事が22.1%、学習塾が19.9%と続く。

3. 親子のかかわりについての分析

3.1 子供の習い事に関する分析

本節では、子供の習い事と、親の就業や学歴、所得状況等との関連についての回帰分析を行う。表2は、子供の習い事の決定要因についてプロビット分析をした結果であり、係数の数値は限界効果を示している。被説明変数は、「学習塾」「お稽古事」「部活動」「スポーツ教室」「スポーツクラブ」「児童館」「放課後児童クラブ」への参加の有無であり、参加している場合には1を、参加していない場合には0をとる。説明変数は、母親の就業状況(パートタイム、フルタイム就業)、母親の年齢、母親の学歴、父親の就業状況(長時間労働、無業)、父親の学歴、子供の性別、子供の学年(小学校低学年、小学校高学年、中学校)、子供数を用いた。さらに、夫婦の所得、祖父母との同居の有無、居住地(京浜、中京、京阪地区)を加えた。レファレンス・グループは、母親の就業は「専業主婦」、子供の学年は「就学前」、父親および母親の学歴は「高卒」、居住地は「その他地域」である。標準誤差は、母親ごとにClusteringした頑健標準誤差である。

父親、母親、子供、それに世帯所得、それぞれの視点から次のことが観察される。

(1) 父親の属性と習い事について

父親の学歴は、高卒者と比較した場合、学習塾通いでは大学・大学院卒は4.8%、短大・高専卒は4.7%と参加確率が高く、通信添削では、大学・大学院卒は4.5%、短大・高専卒は3.7%と参加確率が高くなっている。しかし、お稽古事やスポーツ活動への参加には、学歴の影響は見られない。学歴の高い父親の場合、学習面に力を入れているとみられる。父親が長時間労働している場合、スポーツ教室への参加確率が23%増加するが、その他の習い事

に関しては有意な関連は見られない。

(2) 母親の属性と習い事について

母親の学歴との関連をみると、お稽古事では、高校卒に比べて短大卒で7.8%、大学卒では9.5%参加確率が高い。スポーツ教室は、短大卒で3.9%、大学卒では5.5%有意に参加確率が高い。児童館の利用は大卒で2.2%参加確率が高くなる。母親の場合は、父親と比較してみると、学歴が高いことが学習面の活動への参加確率を高めてはいないが、母親は父親に比べて、お稽古事やスポーツ教室など情緒面での活動に力を入れていることがうかがわれる。母親の就業状況との関連では、パートタイム勤務では、専業主婦比で、学習塾が3.2%、お稽古事が2.7%多い一方で、児童館利用は4.3%少ない。フルタイム就業では、専業主婦に比べて、スポーツ教室が4.7%、児童館が4.0%低い。放課後児童クラブの利用はパートタイムで0.5%、フルタイムで0.8%多くなっている。白井・小林(2013)は、単年度(2012年)で、同様の分析を行い、母親の学歴が短大卒以上では、お稽古事とスポーツ教室に子供を通わせる確率が高く、母親の就業形態では、パートタイム勤務の場合、学習塾やお稽古に熱心であったことを確認したが、今回2014年のデータを加えたことで、より精緻な分析ができたと考えられる。

(3) 子供の状況について

女の子の場合、男の子に比べて、お稽古事が13.9%、通信添削が2.5%多くなる一方で、スポーツクラブは9.4%低下している。女の子は、スポーツなどの活動よりも、お稽古事や自宅で可能な通信添削などの活動が好まれているように考えられる。

学習塾への参加は、中学校で最も高く、就学前と比較して33.9%上昇する(低学年から学齢と共に高くなる)。部活動は学齢と共に高くなり、中学生になると最も高くなるが、逆に、お稽古事とスポーツ教室は、学齢と共に低下する。スポーツクラブは、小学生の間は参加確率が高いが、中学生になると急速に低下する。通信添削も低学年ほど利用が多い。児童館および放課後児童クラブは、学齢と共に低下する。これらのことから、白井・小林(2013)でも示したように、幼児期から小学低学年・高学年そして中学生になるにつれて習い事の種類のシフトが起きていることが明らかになった。

(4) 世帯所得について

世帯所得が高いほど、学習塾では5.9%、お稽古事2.8%、スポーツ教室5.2%、通信添削が1.9%と

表 2. 子供の習い事についてのプロビット分析の結果

	学習塾		お稽古		部活		スポーツ教室		スポーツクラブ		児童館		通信添削		放課後児童クラブ	
	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差
父親																
週 60 時間以上	-0.013	0.013	0.017	0.013	0.003	0.003	0.023	0.013*	0.008	0.006	0.005	0.008	-0.013	0.012	-0.003	0.002
無業	0.085	0.065	0.135	0.063**	0.008	0.019	0.157	0.068**	-0.045	0.033	0.003	0.048	0.041	0.053		
高校卒未満	-0.025	0.040	-0.016	0.038	0.004	0.009	-0.047	0.039	0.001	0.016	-0.009	0.022	0.025	0.038	0.006	0.005
短大専卒	0.047	0.021**	0.005	0.020	0.000	0.004	0.005	0.022	0.008	0.009	-0.003	0.013	0.037	0.018**	-0.001	0.003
大学・大学院卒	0.048	0.017***	0.027	0.017	0.000	0.004	0.020	0.018	0.002	0.008	0.001	0.010	0.045	0.015***	-0.001	0.003
母親																
パートタイム	0.032	0.014**	0.027	0.014*	0.004	0.004	0.012	0.015	0.007	0.007	-0.043	0.009***	-0.017	0.013	0.005	0.003*
フルタイム	-0.011	0.018	-0.004	0.017	0.001	0.004	-0.047	0.019**	-0.001	0.009	-0.040	0.010***	-0.010	0.015	0.008	0.003**
年齢	0.006	0.001***	0.006	0.001***	0.000	0.000	0.002	0.001	0.001	0.001	-0.001	0.001	0.001	0.001	0.000	0.000
高校卒未満	0.066	0.054	-0.015	0.056	-0.020	0.014	-0.048	0.052	-0.021	0.024	0.013	0.023	-0.120	0.063*	0.001	0.007
短大専卒	0.012	0.016	0.078	0.017***	-0.001	0.004	0.039	0.017**	0.001	0.007	0.015	0.010	0.016	0.014	0.001	0.003
大学・大学院卒	0.002	0.019	0.095	0.020***	0.001	0.005	0.055	0.020***	-0.007	0.010	0.022	0.011*	0.026	0.016	0.005	0.004
子供																
女の子	0.002	0.011	0.139	0.011***	-0.001	0.003	-0.011	0.012	-0.094	0.007**	-0.002	0.005	0.025	0.009**	0.000	0.002
小学低学年	0.209	0.015***	0.257	0.015***	0.059	0.006**	0.270	0.015***	0.119	0.008**	0.017	0.008**	0.167	0.014***	0.031	0.007***
小学高学年	0.308	0.017***	0.250	0.017***	0.100	0.008**	0.164	0.017***	0.144	0.010***	0.000	0.009	0.149	0.017***	0.019	0.005***
中学	0.339	0.019***	0.072	0.020***	0.159	0.015***	-0.115	0.024***	0.053	0.011***	-0.055	0.015***	0.135	0.019***	-0.004	0.007
子ども数 2 人	-0.024	0.017	0.014	0.017	-0.011	0.005**	0.052	0.017***	0.030	0.010***	-0.011	0.008	0.002	0.015	0.001	0.003
子ども数 3 人以上	-0.086	0.020**	0.005	0.020	-0.007	0.006	-0.006	0.021	0.040	0.010***	-0.024	0.011**	-0.024	0.017	-0.003	0.004
居住形態他																
所得	0.059	0.015***	0.028	0.012**	0.006	0.003	0.052	0.013***	0.010	0.007	0.005	0.007	0.019	0.011*	0.006	0.003**
祖父母同居	-0.012	0.042	-0.036	0.037	0.003	0.009	-0.014	0.041	-0.004	0.016	-0.004	0.020	-0.041	0.031	-0.004	0.007
女性の回答者	-0.012	0.013	-0.015	0.013	-0.006	0.003*	-0.019	0.014	0.009	0.006	-0.024	0.008**	-0.031	0.011***	0.003	0.002
東京	0.039	0.015***	-0.014	0.015	0.000	0.004	0.039	0.016**	-0.007	0.007	0.015	0.009*	-0.004	0.013	0.001	0.002
中京	0.028	0.025	0.017	0.024	0.020	0.006***	0.020	0.024	-0.019	0.011*	-0.005	0.015	-0.024	0.021	-0.004	0.005
大阪	0.062	0.019***	0.006	0.017	-0.003	0.005	0.033	0.020*	-0.010	0.009	-0.008	0.012	-0.006	0.016	0.002	0.003
Log pseudolikelihood	-3032.7		-2979.0		-1427.7		-3384.1		-1774.1		-1467.0		-1083.0		-342.9	
N	6946		6946		6946		6946		6946		6644		3489		3452	

注) レファレンス・グループは、父親の学歴(高卒)、母親の学歴(高卒)、母親の就業(専業主婦)、子供の就学(就学前)、居住地(その他の地域)である。***は1%、**は5%、*は10%水準で有意。

表 3. 子供との充実した交流時間の記述統計量

	父親高卒以下		父親短大卒以上		母親高卒以下		母親短大卒以上		
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
父親読み聞かせ					母親読み聞かせ				
全くない	0.509	0.500	0.350	0.477	全くない	0.433	0.496	0.282	0.450
年に数回	0.139	0.347	0.109	0.312	年に数回	0.088	0.284	0.055	0.228
月に数回	0.131	0.338	0.172	0.378	月に数回	0.172	0.378	0.139	0.346
週に1回	0.098	0.297	0.188	0.391	週に1回	0.127	0.333	0.157	0.364
週に3回くらい	0.056	0.230	0.116	0.320	週に3回くらい	0.116	0.320	0.202	0.402
毎日	0.067	0.249	0.064	0.245	毎日	0.063	0.244	0.165	0.371
N	481		1482		N	441		1421	
父親と勉強					母親と勉強				
全くない	0.293	0.455	0.198	0.399	全くない	0.072	0.259	0.051	0.220
年に数回	0.193	0.395	0.166	0.372	年に数回	0.052	0.222	0.046	0.209
月に1回程度	0.198	0.399	0.177	0.382	月に1回程度	0.074	0.262	0.063	0.243
週に1回程度	0.178	0.383	0.274	0.446	週に1回程度	0.142	0.349	0.130	0.336
週に数回	0.109	0.312	0.158	0.365	週に数回	0.369	0.483	0.400	0.490
毎日	0.030	0.170	0.027	0.161	毎日	0.292	0.455	0.311	0.463
N	540		1090		N	542		1095	
父親と一緒に食事					母親と一緒に食事				
0回	0.223	0.417	0.254	0.436	0回	0.023	0.151	0.040	0.195
1回	0.525	0.500	0.476	0.500	1回	0.214	0.410	0.142	0.350
2回	0.195	0.396	0.209	0.407	2回	0.523	0.500	0.547	0.498
3回	0.057	0.232	0.061	0.239	3回	0.240	0.427	0.271	0.445
N	1232		2749		N	1235		2823	

参加確率が高くなる。これらの活動には月謝や用具の費用が掛かるため、家庭の経済状況が子供の習い事の選択にも影響していることが示唆される。

3.2 読み聞かせ、家庭学習、食事に関する分析

本節では、子供と親がどの程度、読み聞かせ、共に勉強や食事をしているかを分析した。LOSEFでは、第2回調査において、「家庭での勉強を親がみる(母親/父親別々に質問)」、「親子揃っての食事(母親/父親別々に質問)」、「本の読み聞かせ(母親/父親別々に質問)」という項目があり、これらの質問を、個々の子供の場合について質問した。そうした育児の活動は、Heiland *et al.*(2014)らによって、「親子の充実した交流時間(quality time)」といわれている。

「本の読み聞かせ」をしているかどうかを、小学校低学年(9歳)以下の子供の場合について尋ねた。

質問は、「あなたのご家庭では、お子さんに本の読み聞かせをしますか。」というものであり、回答は「本の読み聞かせはしない」、「年に数回」、「月に数回」、「週に1回」、「週に3回くらい」、「毎日」、「読み聞かせは卒業した」、「父親/母親と同居していない」から1つを選択する。

「家庭での勉強を親がみる」とは、小学生の子供

に対して、「あなたのご家庭では、学校の宿題・塾の復習・通信講座・家庭学習等を、母親/父親がお子さんと一緒に行いますか。」という質問である。回答は、「全くしない」、「年に数回」、「月に1回程度」、「週に1回程度」、「週に数回」、「毎日」の中から1つを選択する。

「親子揃っての食事」とは、すべての年齢の子供について、「あなたのご家庭では、母親/父親がお子さんと平日に食事(朝、昼、夕)を共にするのは、1日何回ですか。」という質問であり、回答者は「0回、1回、2回、3回、父親/母親と同居していない」の中から1つを選択する。

3.2.1 読み聞かせ、家庭学習、食事に関する記述統計量

表3は「親子の充実した交流時間(quality time)」を父親・母親の学歴別にみた分布である。ここでは、①高卒未満および高卒、②短大・高専卒および大学・大学院卒の2グループに分類している。各項目毎に、次の状況が明らかになった。

(1) 「読み聞かせ」について：

父親母親ともに、学歴が高卒以下の場合、「全くない」と「年に数回」を合わせると、父親は64.8%、母親は52.1%と、半数以上が読み聞かせを行っていない。「毎日」「週に3回くらい」および「週に1

表 4-1 読み聞かせについての順序プロビット分析の結果

	父親読み聞かせ		母親読み聞かせ		両親読み聞かせ	
	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差
父親						
週 60 時間以上	0.013	0.074	0.010	0.073	-0.029	0.073
無業	1.027	0.525**	0.519	0.512	0.507	0.480
高校卒未満	-0.546	0.366	-0.232	0.205	-0.303	0.247
短大高専卒	0.023	0.114	0.268	0.112**	0.229	0.111**
大学・大学院卒	0.183	0.095*	0.239	0.099**	0.252	0.096***
母親						
パートタイム	0.007	0.078	0.023	0.078	0.025	0.078
フルタイム	-0.058	0.088	-0.122	0.089	-0.106	0.088
年齢	-0.015	0.007**	-0.007	0.007	-0.009	0.007
高校卒未満	-0.104	0.282	-0.028	0.236	-0.036	0.226
短大高専卒	0.030	0.094	0.196	0.090**	0.161	0.089*
大学・大学院卒	0.105	0.098	0.324	0.098***	0.290	0.095***
子供						
女の子	0.055	0.057	0.053	0.058	0.050	0.057
小学低学年	-0.730	0.067***	-0.899	0.063***	-0.914	0.062***
子ども数 2 人	-0.211	0.086**	-0.249	0.085***	-0.195	0.084**
子ども数 3 人以上	-0.250	0.101**	-0.214	0.099**	-0.220	0.100**
居住形態他						
所得	0.127	0.073*	0.019	0.070	0.045	0.069
祖父母同居	0.107	0.134	0.001	0.134	0.049	0.135
女性の回答者	-0.040	0.068	0.118	0.068*	0.072	0.067
東京	-0.001	0.076	-0.178	0.079**	-0.146	0.078*
中京	-0.052	0.121	-0.100	0.120	-0.073	0.121
大阪	-0.079	0.097	-0.275	0.106***	-0.263	0.104**
ρ	0.707	0.021***				
Log pseudolikelihood		-4445.9			-3584.8	
N		1540			1540	

注) レファレンス・グループは、父親の学歴(高卒)、母親の学歴(高卒)、母親の就業(専業主婦)、子供の就学(就学前)、居住地(その他の地域)である。***は1%、**は5%、*は10%水準で有意。

回」読み聞かせを行っているのは、父親が高卒以下で22.0%、父親が短大卒以上で36.8%であった。また、母親が高卒以下で30.6%、母親が短大卒以上で52.4%であった。分布を見ると、父親母親の学歴が高いほうが、読み聞かせの頻度が高く、親の学歴と読み聞かせに大きな差があることが分かった。特に幼児期に本の読み聞かせを行うことと母親の学歴が関連しており、学歴の世代を越えた継続を生み出している可能性がある。

(2) 「親が子供の勉強をみる」ことについて：

父親の学歴が高卒以下の場合、「全くない」と「年に数回」を合わせると48.6%と半数近くが子供の勉強をみていないが、短大卒以上では36.4%とやや改善される。しかし、母親の場合は学歴による差はそれほど大きくはない。むしろ、父親、及び、母親のそれぞれの同性のグループの中における学歴による違いよりも、男女間(父親か母親か)の違いの

方が大きく、母親の方がより熱心に子供の勉強をみていることがうかがわれる。

(3) 「親子での食事回数」について：

親子での食事回数の最頻値は、一日に父親1回、母親は2回である。父親との食事回数では、0回が22.3%もあることは、朝早い出勤、夜遅い帰宅などの要因もあると考えられる。

3.2.2 読み聞かせ、家庭学習指導、及び、食事に関する回帰分析

親の働き方と、親と子供との充実した交流時間—子供に本の読み聞かせをする頻度、子供の勉強をみる頻度、子供と一緒に食事をする回数—と、互いにどのような関係にあるかを分析する。

親の働き方との関係で、父親と子供との充実した交流時間と、母親と子供との充実した交流時間とを別々に分析し、さらに、子供との充実した交流時間を父親の分と母親の分

を併せて分析する。これは、子供との交流時間は、父親、母親のどちらによるものであっても同様に有意義と考えられるからである。具体的には、「両親が子供へ読み聞かせをする頻度」は、「父親が読み聞かせをする頻度」と「母親が読み聞かせをする頻度」を合算する¹⁾。同様に、「両親が子供の勉強をみる頻度」は、「父親が勉強を見る頻度」と「母親が勉強を見る頻度」を合算する。また、「両親が子供と食事をする回数」を、「父親が子供と食事をする回数」と「母親が子供と食事をする回数」を合算する²⁾。

親が子供に読み聞かせを行っている頻度、親が子供の勉強を見る頻度、親が子供と一緒に食事をする回数の順序プロビット分析した結果が、それぞれ表4-1、表4-2、表4-3である。表4-1、表4-2、表4-3の係数は順序プロビットモデルの推定値を示している。各表の被説明変数は、父親、母親、及び、両

表 4-2 子供の勉強を見ることについての順序プロビット分析の結果

	父親と勉強		母親と勉強		両親と勉強	
	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差
父親						
週 60 時間以上	-0.248	0.073***	0.007	0.077	-0.047	0.075
無業	-0.176	0.435	-0.098	0.435	0.133	0.437
高校卒未満	-0.005	0.240	0.292	0.213	0.207	0.208
短大高専卒	0.161	0.103	-0.077	0.107	-0.048	0.104
大学・大学院卒	0.238	0.087***	-0.096	0.089	-0.058	0.087
母親						
パートタイム	-0.042	0.078	-0.074	0.082	-0.074	0.078
フルタイム	0.176	0.098*	-0.310	0.099***	-0.194	0.097**
年齢	-0.017	0.009**	0.007	0.008	-0.002	0.008
高校卒未満	-0.305	0.231	-0.027	0.279	-0.020	0.285
短大高専卒	-0.038	0.084	0.059	0.082	0.042	0.080
大学・大学院卒	-0.026	0.102	0.150	0.102	0.139	0.099
子供						
女の子	-0.130	0.056**	-0.225	0.057***	-0.232	0.055***
小学低学年	0.261	0.054***	0.817	0.059***	0.772	0.058***
子ども数 2 人	-0.117	0.091	-0.281	0.100***	-0.284	0.100***
子ども数 3 人以上	-0.060	0.100	-0.355	0.108***	-0.318	0.108***
居住形態他						
所得	-0.047	0.078	0.067	0.092	0.047	0.078
祖父母同居	-0.259	0.194	0.117	0.189	-0.026	0.182
女性の回答者	-0.278	0.070***	0.102	0.071	-0.022	0.069
東京	0.038	0.082	-0.092	0.080	-0.024	0.077
中京	0.028	0.132	-0.150	0.139	-0.118	0.134
大阪	-0.030	0.093	-0.185	0.102*	-0.173	0.098*
ρ	0.316	0.035***				
Log pseudolikelihood	-4291.3				-3264.5	
N	1435				1435	

注) レファレンス・グループは、父親の学歴(高卒)、母親の学歴(高卒)、母親の就業(専業主婦)、子供の就学(小学高学年)、居住地(その他の地域)である。***は1%、**は5%、*は10%水準で有意。

親の子供との充実した交流時間(それぞれ、読み聞かせ、勉強、一緒に食事)である。説明変数は、母親の就業状況(パートタイム、フルタイム就業)、母親の年齢、母親の学歴、父親の就業状況(長時間労働、無業)、父親の学歴、子供の性別、子供の学年(小学校低学年、小学校高学年、中学校)、子供数を用いた。さらに、夫婦の所得、祖父母との同居の有無、回答者の性別、居住地(京浜、中京、京阪地区)である³⁾。

(1) 「読み聞かせ」について：

父親母親ともに、小学校低学年の子供に対してよりも、就学前の子供に対して、より高い頻度で読み聞かせをしている。父親母親の学歴が高いほど読み聞かせをしている。子供数が多い方が読み聞かせの頻度が低い。

親の働き方に関しては、父親が長時間労働、及び、母親がパートタイムの場合、父親母親共、あるいは、

両親合わせた、いずれの場合でも、子供への読み聞かせをする頻度は、そうでない場合(父親が長時間労働でない、母親は専業主婦)に比べても変わらない⁴⁾。母親がフルタイムで働いている場合も同様の結果である。ただし、母親の子供への読み聞かせをする頻度は統計的に有意ではないが下がっている。

(2) 「親が子供の勉強をみる」ことについて：

母親も父親も、子供が小学校高学年よりも低学年の時の方が勉強をみる頻度が高い。父母ともに、子供の学年が上がるにつれ勉強をみる頻度が低下する。子供数が多いと、母親が勉強をみる頻度は低下する。父母ともに、女の子の勉強をみる頻度は男の子に比べて有意に低く、男の子と女の子とでは、子供の勉強に対する親の姿勢に差がある。(読み聞かせに関しては、男の子と女の子の間で有意な差がなかった。) 親が子供の勉強をみることと親の学歴との関連をみると、父親の場合、高校卒である場合に比べ大学・大学院卒の方が勉強をみる頻度が高いが、母親の場合、学歴と勉強をみる頻度には有意な差がない。学歴の高い父親の方が子供の勉強を良く見ていることが確認できた。この点は Nakamuro *et al.*(2015)、Heiland *et al.*(2014)でも同様であった⁵⁾。父親自身が「自分が子供の勉強を見ている」と回答する頻度は、母親が「父親が子供の勉強を見ている」と回答する頻度よりも有意に高い。これに対し、母親自身が「自分が子供の勉強を見ている」と回答する頻度と、父親が「母親が子供の勉強をみている」と回答する頻度は変わらない。そのため、父親は、母親が観察している以上に「自分が子供の勉強を見ている」頻度を多めに評価している。これから言えることは、母親自身の観察による自己評価と、父親の母親への評価との一貫性の高さから考えて、母親の方が父親よりも

表 4-3 親子で一緒に食事をするについての順序プロビット分析の結果

	父親と一緒に食事		母親と一緒に食事		両親と一緒に食事	
	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差
父親						
週 60 時間以上	-0.503	0.061***	-0.018	0.058	-0.319	0.055***
無業	0.394	0.261	-0.241	0.229	0.148	0.214
高校卒未満	0.058	0.150	0.325	0.152**	0.216	0.136
短大高専卒	0.066	0.083	0.063	0.076	0.075	0.077
大学・大学院卒	0.007	0.068	0.005	0.064	0.015	0.063
母親						
パートタイム	0.078	0.063	-0.315	0.061***	-0.117	0.058**
フルタイム	0.269	0.070***	-0.472	0.068***	-0.080	0.066
年齢	0.002	0.006	-0.013	0.005**	-0.006	0.005
高校卒未満	-0.580	0.247**	-0.315	0.200	-0.539	0.184***
短大高専卒	-0.084	0.066	-0.004	0.062	-0.051	0.063
大学・大学院卒	-0.013	0.077	0.057	0.071	0.029	0.072
子供						
女の子	-0.039	0.037	-0.084	0.039**	-0.066	0.036*
小学低学年	0.022	0.052	-0.440	0.053***	-0.222	0.047***
小学高学年	0.054	0.064	-0.453	0.064***	-0.210	0.060***
中学	-0.017	0.069	-0.620	0.071***	-0.362	0.066***
子ども数 2 人	-0.053	0.063	-0.120	0.067*	-0.094	0.059
子ども数 3 人以上	0.036	0.075	-0.100	0.072	-0.017	0.068
居住形態他						
所得	-0.087	0.056	-0.030	0.050	-0.069	0.049
祖父母同居	0.013	0.142	0.158	0.123	0.112	0.128
女性の回答者	-0.203	0.053***	-0.018	0.050	-0.135	0.049***
東京	-0.282	0.061***	-0.029	0.060	-0.200	0.057***
中京	-0.345	0.100***	-0.009	0.094	-0.226	0.092**
大阪	-0.246	0.076***	-0.051	0.072	-0.187	0.070***
ρ	0.346	0.026***				
Log pseudolikelihood		-7424.1			-5443.1	
N		3,495			3,495	

注) レファレンス・グループは、父親の学歴(高卒)、母親の学歴(高卒)、母親の就業(専業主婦)、子供の就学(就学前)、居住地(その他の地域)である。***は1%、**は5%、*は10%水準で有意。

正確に回答していると考えられる。従って、この二つの食い違いが生ずるのは、父親は自己を客観的に評価していない傾向があり、結果として自己評価が高すぎる可能性がある。

母親がフルタイムで働いている場合、母親が子供の勉強を見る頻度は下がるが、それを補うように、父親が子供の勉強を見る頻度が高くなる。しかし、母親がフルタイムで働いている場合は、両親が子供の勉強を見る頻度は、全体としては低下している。すなわち、母親がフルタイムで働く場合、母親が子供の勉強を見る頻度が下がる分を父親が補っているが完全には補っていない⁶⁾。

母親がパートタイムで働いている場合、母親が子供の勉強を見る頻度も、父親が子供の勉強を見る頻度も変わらない。これから見ると、母親の就労がパ

ートタイムの場合、読み聞かせや子供の勉強を見るという点において、家庭内での子供との充実した交流時間が保たれる手段の一つとなっているかもしれない。

一方、父親が長時間労働をしていると、父親が子供の勉強をみる頻度は下がるが、母親が子供の勉強をみる頻度は変化しない。また、両親が子供の勉強を見る頻度にも、全体として有意に変わらない。長時間労働をしている父親の家庭においては、母親がフルタイムで働く割合は低く⁷⁾、父親の長時間労働により父親自身が子供の勉強を見る頻度が減る分、母親が働き方を軽くして補っている可能性がある。

(3) 「親子での食事回数」について：

親子そろっての食事については、母親との場合、学年が上がるにつれ回数が低下する。これは、子供が学校に行っていて昼食は共にしないことや、塾や習い事で夕食が共にできないことが増えることも関係

しているものと考えられる。

親子そろっての食事回数については、親の学歴とは関連が見られないが、親の働き方との関連が見られる。母親がパートタイム、あるいは、フルタイムで働く場合、母親が子供と食事を一緒にする回数は少ない。特に、母親がフルタイムで働く場合、母親が子供と一緒に食事をする回数が増えている。両親合計の食事をする回数をみると、全体としては変わらない。母親がフルタイムで働く場合は、父親が子供と共に食事をすることによって、母親の少ない分を完全に補っているようである。母親がパートタイムで働く場合、母親が子供と食事をする回数は減るが、父親の子供と食事をする回数が増えるため、両親合計の食事をする回数は、全体として減る。

表 5. 親の働く時間帯の記述統計量

	父親の働き方		母親の働き方	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差
早朝(午前7時前)				
ない	0.622	0.485	0.881	0.324
ある：毎日	0.035	0.185	0.005	0.070
ある：週に数回	0.075	0.263	0.021	0.143
ある：週に1回	0.017	0.129	0.017	0.130
ある：必要な時だけ	0.251	0.434	0.076	0.266
夕方(午後7時以降)				
ない	0.231	0.421	0.713	0.453
ある：毎日	0.188	0.391	0.015	0.120
ある：週に数回	0.249	0.433	0.070	0.255
ある：週に1回	0.026	0.160	0.021	0.143
ある：必要な時だけ	0.306	0.461	0.182	0.386
夜(午後10時以降)				
ない	0.406	0.491	0.850	0.357
ある：毎日	0.025	0.156	0.010	0.099
ある：週に数回	0.122	0.328	0.033	0.180
ある：週に1回	0.019	0.138	0.015	0.121
ある：必要な時だけ	0.427	0.495	0.092	0.289

一方、父親が長時間労働をしていると、父親が子供と食事を一緒にする回数は少ないが、母親が子供と食事を一緒にする回数には変わりがない。従って、両親合計の食事を一緒にする回数は、全体として減る。

都市部の父親は、子供との食事回数が少ない。これは、通勤時間なども影響している可能性が考えられる。しかし、政府(内閣府「食育白書」)が、「家族と一緒に食べる『共食』の回数」を目標として掲げているように、子供の食育という観点からも親子そろっての食事は大切である。

3.3 親の働く時間帯と子供との充実した交流時間について

本節では、父親と母親が働く時間帯と、それぞれが子供と持つ充実した交流時間との関係について明らかにしたい⁸⁾。LOSEFにおいては、「親が働いている場合、朝(午前7時以前)、夕方(午後7時以降)、夜(午後10時以降)に、収入を伴う仕事をしなければならぬことがありますか。」という質問項目を用意し、その期間に仕事をしなければならぬ場合には、その頻度を、「毎日」、「週に数回」、「週に1回」、あるいは「必要な時だけ」のどれかと聞いている。

3.3.1 親の働く時間帯の記述統計量

表5は、父親が、朝(午前7時以前)、夕方(午後

7時以降)、夜(午後10時以降)において働く頻度の分布を示している。父親で、早朝(午前7時以前)に働かない人の割合は、62.2%と最も高く、「必要な時だけ」が25.1%と続き、9割弱の父親は、通常、早朝勤務をしていない。夕方(午後7時以降)の勤務の場合は、「必要な時だけ」働くのが30.6%、「週に数回」が24.9%、「毎日」が18.8%となっており、夕方に働いたことがある父親は7割近くいる。夜(午後10時以降)に働く頻度は、「必要な時だけ」が42.7%、「週に数回」が12.2%であるが、「なし」が40.6%である。夕方に働く父親の割合は高いが、早朝や、夜に働く父親の割合は低い。

一方、働いている母親が、朝(午前7時以前)、夕方(午後7時以降)、夜(午後10時以降)の各時間帯において働いている頻度をみよみる。昼間に働く母親がほとんどで、早朝(午前7時以前)に働かない母親は88.1%、夕方(午前7時以降)に働かない母親は71.3%、夜(午後10時以降)に働かない母親は85.0%と高い割合である。夕方、「必要な時だけ」働いている母親の割合は18.2%にのぼるが、昼ではなく、朝、夕方、あるいは夜に働く母親は、父親と比べて少ない。

3.3.2 親の働く時間帯に関する回帰分析

父親の働く時間帯と親が子供に読み聞かせを行っている頻度、父親の働く時間帯と親が子供の勉強を見る頻度、父親の働く時間帯と親が子供と一緒に食事を回数の順序プロビット分析した結果が、それぞれ表6-1、表6-2、表6-3である。母親の働く時間帯について、同様の回帰分析をした結果が表7-1、表7-2、表7-3である。説明変数は、父親、または、母親の働く時間帯の変数を、表4-1、表4-2、表4-3の分析で用いた説明変数に加えたものである。親の働く時間帯については、調査対象者のみに聞き、調査対象者の配偶者については聞いていない。そのため、父親の働く時間帯を説明変数に加えた表6-1、表6-2、表6-3の分析については、サンプルは調査対象者が父親に限られるため、表4-1、表4-2、表4-3の分析に比べて、サンプル数は少ない。同様に、母親の働く時間帯を被説明変数に加えた表7-1、表7-2、表7-3の分析についても、サンプルは調査対象者が母親に限られるため、表4-1、表4-2、表4-3の分析に比べて、サンプル数は少ない。

(1) 「読み聞かせ」について：

前節3.2の表4-1の推定結果から、父親が長時間

表 6-1 父親の働く時間帯と読み聞かせについての分析

	父親早朝(午前7時前)				父親夕方(午後7時以降)				父親夜(午後10時以降)			
	父親読み聞かせ		母親読み聞かせ		父親読み聞かせ		母親読み聞かせ		父親読み聞かせ		母親読み聞かせ	
	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差
父親												
ある：毎日	-0.213	0.197	-0.173	0.208	-0.282	0.156*	-0.135	0.147	-0.250	0.312	-0.118	0.274
ある：週に数回	-0.108	0.153	-0.164	0.162	-0.321	0.134**	-0.068	0.129	-0.010	0.159	-0.023	0.162
ある：週に1回	-0.106	0.243	0.295	0.323	-0.204	0.187	-0.145	0.231	0.406	0.146***	0.145	0.151
ある：必要な時だけ	0.044	0.106	0.195	0.108*	0.046	0.132	0.129	0.137	-0.014	0.103	0.060	0.104
週60時間以上	0.007	0.117	0.018	0.115	0.075	0.120	0.070	0.118	-0.010	0.122	0.018	0.122
無業	2.336	0.570***	1.557	0.608***	2.199	0.582***	1.478	0.614**	2.309	0.576***	1.511	0.609**
高校卒未満	-0.368	0.339	0.007	0.286	-0.355	0.353	0.006	0.267	-0.314	0.335	-0.028	0.269
短大高専卒	0.214	0.180	0.339	0.183*	0.249	0.181	0.343	0.181*	0.181	0.180	0.309	0.184*
大学・大学院卒	0.286	0.153*	0.309	0.162*	0.312	0.150**	0.333	0.159**	0.291	0.154*	0.325	0.164**
母親												
パートタイム	0.047	0.113	-0.049	0.108	0.056	0.111	-0.048	0.109	0.052	0.113	-0.053	0.109
フルタイム	-0.150	0.121	-0.274	0.124**	-0.134	0.122	-0.246	0.123**	-0.144	0.122	-0.262	0.124**
年齢	-0.014	0.010	-0.003	0.010	-0.018	0.010*	-0.003	0.010	-0.013	0.010	0.000	0.010
高校卒未満	-0.213	0.363	0.097	0.306	-0.316	0.366	0.065	0.313	-0.206	0.360	0.110	0.312
短大高専卒	-0.018	0.136	0.148	0.135	-0.003	0.136	0.158	0.136	0.000	0.134	0.149	0.134
大学・大学院卒	0.091	0.144	0.299	0.145**	0.117	0.145	0.308	0.148**	0.086	0.144	0.292	0.147**
子供												
女の子	0.107	0.081	0.051	0.084	0.117	0.081	0.068	0.084	0.117	0.082	0.080	0.084
小学低学年	-0.869	0.097***	-1.011	0.093***	-0.864	0.098***	-1.007	0.094***	-0.875	0.097***	-1.021	0.093***
子ども数2人	-0.100	0.121	-0.115	0.120	-0.094	0.121	-0.130	0.119	-0.116	0.121	-0.130	0.119
子ども数3人以上	-0.162	0.136	-0.172	0.134	-0.148	0.135	-0.196	0.134	-0.187	0.139	-0.189	0.135
居住形態他												
所得	0.144	0.094	0.121	0.095	0.153	0.098	0.112	0.095	0.116	0.098	0.093	0.099
祖父母同居	0.093	0.180	-0.115	0.167	0.082	0.177	-0.137	0.168	0.082	0.180	-0.145	0.166
東京	-0.073	0.109	-0.240	0.115**	-0.044	0.111	-0.214	0.115*	-0.069	0.110	-0.231	0.116**
中京	-0.062	0.202	-0.139	0.184	-0.050	0.195	-0.147	0.181	-0.038	0.219	-0.105	0.196
大阪	-0.117	0.130	-0.208	0.136	-0.090	0.129	-0.207	0.138	-0.109	0.132	-0.223	0.139
ρ	0.780	0.025***			0.777	0.025***			0.778	0.025***		
Log pseudolikelihood												
N												
		-2154.8				-2152.2				-2144.6		
		788				788				782		

注) レファレンス・グループは、父親の学歴(高卒)、母親の学歴(高卒)、母親の就業(専業主婦)、子供の就学(就学前)、居住地(その他の地域)である。***は1%、**は5%、*は10%水準で有意。

表 6-2 父親の働く時間帯と親が子供の勉強を見ることの分析

	早朝(午前7時前)				夕方(午後7時以降)				夜(午後10時以降)			
	父親と勉強		母親と勉強		父親と勉強		母親と勉強		父親と勉強		母親と勉強	
	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差
父親												
ある：毎日	0.099	0.159	-0.169	0.244	-0.140	0.151	0.168	0.158	0.012	0.248	0.222	0.265
ある：週に数回	0.288	0.151*	-0.163	0.169	0.075	0.144	-0.043	0.141	-0.063	0.165	-0.073	0.192
ある：週に1回	-0.479	0.447	0.548	0.447	0.082	0.334	0.335	0.411	-0.291	0.352	0.893	0.404**
ある：必要な時だけ	0.051	0.123	-0.255	0.117**	0.157	0.146	0.006	0.138	-0.062	0.112	-0.004	0.110
週60時間以上	-0.357	0.112***	0.147	0.126	-0.241	0.112**	0.065	0.127	-0.307	0.118***	0.136	0.136
無業	0.383	0.895	-0.095	0.726	0.317	0.897	0.080	0.716	0.266	0.907	-0.036	0.730
高校卒未満	-0.051	0.509	0.598	0.471	-0.047	0.546	0.511	0.495	-0.055	0.519	0.545	0.486
短大高専卒	0.226	0.156	-0.128	0.163	0.207	0.161	-0.090	0.163	0.178	0.158	-0.093	0.161
大学・大学院卒	0.351	0.136***	-0.356	0.146**	0.332	0.139**	-0.313	0.147**	0.302	0.139**	-0.311	0.145**
母親												
パートタイム	0.003	0.120	-0.018	0.126	-0.027	0.121	-0.038	0.127	0.012	0.120	-0.024	0.127
フルタイム	0.218	0.137	-0.452	0.140***	0.213	0.139	-0.465	0.143***	0.208	0.137	-0.422	0.139***
年齢	-0.002	0.013	0.008	0.011	-0.006	0.013	0.009	0.012	-0.003	0.013	0.009	0.011
高校卒未満	-0.117	0.281	0.171	0.452	-0.101	0.282	0.206	0.448	-0.158	0.287	0.227	0.451
短大高専卒	-0.196	0.127	0.165	0.123	-0.192	0.127	0.158	0.121	-0.176	0.128	0.182	0.123
大学・大学院卒	-0.237	0.145	0.184	0.141	-0.224	0.147	0.185	0.142	-0.233	0.145	0.221	0.143
子供												
女の子	-0.159	0.078**	-0.265	0.083***	-0.149	0.079*	-0.283	0.083***	-0.151	0.078*	-0.288	0.084***
小学低学年	0.221	0.078***	0.659	0.085***	0.223	0.078***	0.665	0.088***	-0.218	0.079***	-0.665	0.087***
子ども数2人	-0.139	0.132	-0.494	0.160***	-0.152	0.132	-0.452	0.157***	-0.147	0.132	-0.474	0.157***
子ども数3人以上	-0.123	0.147	-0.359	0.172**	-0.115	0.147	-0.329	0.170*	-0.084	0.147	-0.343	0.171**
居住形態												
所得	0.084	0.130	0.249	0.135*	0.095	0.129	0.266	0.133**	0.082	0.128	0.223	0.132*
祖父母同居	-0.147	0.278	0.168	0.279	-0.118	0.296	0.161	0.304	-0.144	0.284	0.160	0.282
東京	0.133	0.121	0.025	0.119	0.145	0.122	-0.006	0.119	0.145	0.123	-0.002	0.120
中京	0.199	0.206	-0.055	0.207	0.197	0.206	-0.005	0.219	0.192	0.203	-0.025	0.206
大阪	0.036	0.120	-0.194	0.138	0.050	0.121	-0.179	0.139	0.036	0.120	-0.188	0.138
ρ	0.321	0.052***		0.303	0.052***				0.304	0.053***		
Log pseudolikelihood												
N		-2017.1		-2026.4		-2021.4						
		677		678		677						

(注) レファレンス・グループは、父親の学歴(高卒)、母親の学歴(高卒)、母親の就業(専業主婦)、子供の就学(小学高学年)、居住地(その他の地域)である。***は1%、**は5%、*は10%水準で有意。

表 6-3 父親の働く時間帯と親と一緒に食事することについての分析

	早朝(午前7時前)				夕方(午後7時以降)				夜(午後10時以降)			
	父親と一緒に食事		母親と一緒に食事		父親と一緒に食事		母親と一緒に食事		父親と一緒に食事		母親と一緒に食事	
	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差
父親												
ある：毎日	-0.240	0.183	-0.035	0.180	-0.729	0.130***	0.033	0.121	-0.408	0.191**	-0.094	0.229
ある：週に数回	-0.024	0.125	0.085	0.120	-0.458	0.108***	-0.015	0.104	-0.546	0.118***	0.129	0.123
ある：週に1回	-0.010	0.310	-0.048	0.299	-0.531	0.345	-0.108	0.262	-0.009	0.208	0.224	0.218
ある：必要な時だけ	0.217	0.088**	-0.057	0.083	-0.079	0.099	-0.187	0.096*	-0.195	0.084**	-0.170	0.078**
週60時間以上	-0.495	0.094***	0.001	0.097	-0.305	0.098***	-0.050	0.098	-0.402	0.098***	-0.026	0.099
無業	0.715	0.353***	-0.034	0.370	0.275	0.350	-0.063	0.361	0.402	0.361	-0.038	0.370
高校卒未満	0.353	0.305	0.180	0.260	0.325	0.297	0.239	0.280	0.358	0.327	0.239	0.271
短大専卒	-0.004	0.131	0.078	0.116	0.023	0.131	0.059	0.115	-0.044	0.128	0.088	0.115
大学・大学院卒	-0.014	0.099	0.041	0.095	0.002	0.100	0.017	0.095	-0.046	0.099	0.035	0.095
母親												
パートタイム	-0.031	0.093	-0.380	0.091***	-0.024	0.093	-0.365	0.092***	-0.013	0.095	-0.350	0.094***
フルタイム	0.209	0.096**	-0.491	0.093***	0.208	0.094**	-0.495	0.093***	0.215	0.096**	-0.480	0.093***
年齢	0.001	0.008	-0.001	0.007	-0.002	0.008	-0.001	0.007	0.000	0.008	0.000	0.007
高校卒未満	-0.518	0.372	-0.326	0.296	-0.665	0.378*	-0.340	0.285	-0.580	0.363	-0.306	0.286
短大専卒	-0.078	0.097	0.080	0.093	-0.064	0.096	0.078	0.094	-0.039	0.097	0.098	0.095
大学・大学院卒	0.093	0.110	0.046	0.101	0.132	0.112	0.034	0.102	0.135	0.111	0.042	0.103
子供												
女の子	-0.040	0.053	-0.121	0.056**	-0.017	0.053	-0.119	0.056**	-0.029	0.054	-0.138	0.057**
小学低学年	0.030	0.074	-0.436	0.076***	0.048	0.073	-0.441	0.076***	0.026	0.073	-0.433	0.077***
小学高学年	0.020	0.089	-0.615	0.095***	0.035	0.090	-0.620	0.095***	0.010	0.090	-0.629	0.095***
中学	-0.121	0.100	-0.768	0.102***	-0.111	0.100	-0.762	0.101***	-0.120	0.100	-0.789	0.101***
子ども数2人	0.058	0.088	-0.138	0.093	0.027	0.089	-0.143	0.093	0.030	0.090	-0.155	0.094*
子ども数3人以上	0.172	0.105	-0.182	0.104*	0.136	0.103	-0.190	0.103*	0.153	0.107	-0.219	0.105**
居住形態他												
所得	-0.147	0.080*	-0.084	0.083	-0.138	0.077*	-0.093	0.084	-0.171	0.080**	-0.080	0.083
祖父母同居	0.209	0.171	0.489	0.163***	0.197	0.168	0.482	0.163***	0.186	0.169	0.483	0.164***
東京	-0.241	0.089***	-0.123	0.086	-0.207	0.090**	-0.126	0.087	-0.211	0.089**	-0.109	0.087
中京	-0.201	0.144	-0.096	0.134	-0.194	0.139	-0.114	0.136	-0.188	0.145	-0.127	0.134
大阪	-0.124	0.108	-0.232	0.101**	-0.121	0.106	-0.231	0.100**	-0.131	0.108	-0.228	0.101**
ρ	0.350	0.039	0.371	0.039	0.371	0.039	0.371	0.039	0.351	0.039	0.351	0.039
Log pseudolikelihood		-3551.0		-3508.0		-3508.0		-3529.2		-3529.2		-3529.2
N		1659		1661		1661		1654		1654		1654

(注) レファレンス・グループは、父親の学歴(高卒)、母親の学歴(高卒)、母親の就業(専業主婦)、子供の就学(就学前)、居住地(その他の地域)である。***は1%、**は5%、*は10%水準で有意。

表 7-1 母親の働く時間帯と読み聞かせについての分析

	母親早朝(午前7時前)				母親夕方(午後7時以降)				母親夜(午後10時以降)			
	父親読み聞かせ		母親読み聞かせ		父親読み聞かせ		母親読み聞かせ		父親読み聞かせ		母親読み聞かせ	
	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差
父親												
週60時間以上	0.009	0.102	-0.003	0.100	0.001	0.102	-0.011	0.100	-0.010	0.103	-0.025	0.102
無業	-0.855	0.397**	-1.036	0.632	-0.832	0.390**	-1.009	0.671	-0.873	0.389**	-1.112	0.610*
高校卒未満	-0.682	0.513	-0.421	0.278	-0.702	0.508	-0.365	0.283	-0.724	0.519	-0.481	0.284*
短大高専卒	-0.087	0.150	0.297	0.144**	-0.069	0.149	0.293	0.143**	-0.053	0.152	0.306	0.147**
大学・大学院卒	0.143	0.130	0.209	0.129	0.146	0.128	0.193	0.129	0.176	0.129	0.207	0.128
母親												
ある：毎日	-7.946	0.210***	-8.259	0.213***	-0.260	0.311	0.009	0.374	-8.217	0.239***	-8.369	0.233***
ある：週に数回	0.321	0.217	0.115	0.264	-0.138	0.193	-0.210	0.261	-0.106	0.246	0.128	0.353
ある：週に1回	0.413	0.814	0.500	0.649	0.306	0.370	0.076	0.353	-0.558	0.390	-0.248	0.377
ある：必要な時だけ	-0.129	0.195	-0.056	0.178	-0.044	0.182	-0.137	0.151	-0.151	0.219	-0.298	0.178*
フルタイム	0.059	0.148	-0.101	0.137	0.100	0.143	-0.066	0.138	0.126	0.139	-0.047	0.128
無業	-0.014	0.147	-0.011	0.143	0.029	0.117	-0.146	0.115	0.008	0.115	-0.142	0.115
年齢	-0.020	0.011*	-0.014	0.011	-0.021	0.012*	-0.015	0.011	-0.022	0.011*	-0.015	0.011
高校卒未満	0.036	0.484	-0.282	0.417	0.035	0.442	0.023	0.395	0.131	0.455	-0.173	0.391
短大高専卒	0.069	0.142	0.219	0.130*	0.068	0.140	0.254	0.131*	0.088	0.140	0.242	0.129*
大学・大学院卒	0.130	0.139	0.399	0.140***	0.128	0.141	0.419	0.142***	0.128	0.140	0.412	0.140***
子供												
女の子	0.005	0.085	0.063	0.084	0.002	0.086	0.045	0.084	-0.002	0.086	0.064	0.085
小学低学年	-0.566	0.096***	-0.767	0.089***	-0.564	0.096***	-0.763	0.088***	-0.569	0.096***	-0.769	0.089***
子ども数2人	-0.327	0.135**	-0.340	0.129***	-0.311	0.134**	-0.328	0.127***	-0.282	0.131**	-0.333	0.127***
子ども数3人以上	-0.334	0.153**	-0.210	0.144	-0.327	0.155**	-0.183	0.145	-0.282	0.156*	-0.177	0.145
居住形態他												
所得	0.045	0.100	-0.100	0.088	0.037	0.099	-0.097	0.089	0.033	0.099	-0.105	0.086
祖父母同居	0.124	0.196	0.162	0.228	0.133	0.196	0.173	0.223	0.137	0.198	0.158	0.224
東京	0.117	0.111	-0.084	0.110	0.113	0.111	-0.076	0.109	0.100	0.110	-0.088	0.108
中京	-0.041	0.150	-0.098	0.160	-0.063	0.147	-0.105	0.156	-0.062	0.157	-0.091	0.161
大阪	0.011	0.146	-0.291	0.167*	0.001	0.146	-0.289	0.168*	-0.018	0.146	-0.307	0.168*
ρ	0.625	0.033***		0.628	0.033			0.625	0.034			
Log pseudolikelihood				-2202.5				-2204.2				-2198.8
N				747				747				745

注) レファレンス・グループは、父親の学歴(高卒)、母親の学歴(高卒)、母親の就業(専業主婦)、子供の就学(就学前)、居住地(その他の地域)である。***は1%、**は5%、*は10%水準で有意。

表7-2 母親の働く時間帯と親が子供の勉強をみることの分析

	母親早朝(午前7時前)				母親夕方(午後7時以降)				母親夜(午後10時以降)			
	父親と勉強		母親と勉強		父親と勉強		母親と勉強		父親と勉強		母親と勉強	
	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差
父親												
週60時間以上	-0.224	0.106**	-0.082	0.105	-0.216	0.104**	-0.082	0.103	-0.227	0.107**	-0.093	0.105
無業	-0.377	0.500	-0.341	0.617	-0.475	0.506	-0.315	0.546	-0.441	0.535	-0.317	0.620
高校卒業未満	0.070	0.258	0.046	0.242	0.021	0.260	0.053	0.240	0.049	0.264	0.016	0.235
短大・大学院卒	0.144	0.144	-0.165	0.156	0.126	0.143	-0.179	0.157	0.101	0.139	-0.214	0.155
	0.132	0.118	0.004	0.122	0.138	0.117	0.017	0.119	0.126	0.118	-0.012	0.121
母親												
ある：毎日	0.292	0.265	0.138	0.592	-0.230	0.546	0.299	0.446	-0.254	0.276	-0.284	0.459
ある：週に数回	0.210	0.257	0.444	0.282	0.326	0.207	0.331	0.226	0.609	0.380	0.495	0.372
ある：週に1回	0.018	0.585	0.178	0.334	0.711	0.312**	0.460	0.385	0.769	0.423*	0.974	0.336***
ある：必要な時だけ	-0.094	0.206	-0.128	0.192	-0.039	0.162	-0.063	0.170	-0.070	0.230	-0.139	0.231
フルタイム	0.160	0.156	-0.155	0.145	0.154	0.153	-0.157	0.149	0.135	0.141	-0.133	0.142
無業	0.057	0.106	0.091	0.112	0.082	0.107	0.111	0.111	0.074	0.106	0.117	0.111
年齢	-0.026	0.012**	0.010	0.011	-0.026	0.012**	0.009	0.011	-0.025	0.012**	0.010	0.011
高校卒業未満	-0.273	0.387	-0.230	0.379	-0.444	0.378	-0.083	0.366	-0.285	0.381	-0.235	0.369
短大・大学院卒	0.073	0.120	-0.067	0.117	0.046	0.118	-0.084	0.117	0.086	0.117	-0.048	0.116
大学・大学院卒	0.222	0.150	0.150	0.158	0.208	0.148	0.114	0.153	0.224	0.148	0.138	0.153
子供												
女の子	-0.104	0.082	-0.181	0.082**	-0.099	0.082	-0.180	0.082**	-0.092	0.082	-0.157	0.082*
小学低学年	-0.295	0.075***	-0.923	0.081***	-0.298	0.076***	-0.937	0.082***	0.306	0.074***	0.938	0.082***
子ども数2人	-0.119	0.139	-0.182	0.136	-0.108	0.138	-0.152	0.134	-0.087	0.135	-0.131	0.136
子ども数3人以上	0.039	0.147	-0.333	0.141**	0.033	0.147	-0.294	0.141	0.054	0.144	-0.300	0.140**
居住形態他												
所得	-0.104	0.098	-0.053	0.127	-0.113	0.099	-0.029	0.120	-0.112	0.101	-0.048	0.128
祖父母同居	-0.421	0.282	-0.001	0.229	-0.421	0.275	-0.020	0.229	-0.453	0.267*	-0.029	0.224
東京	-0.034	0.112	-0.170	0.113	-0.047	0.111	-0.179	0.112	-0.037	0.113	-0.182	0.111*
中京	-0.179	0.190	-0.281	0.191	-0.176	0.186	-0.280	0.193	-0.163	0.186	-0.255	0.189
大阪	-0.048	0.145	-0.132	0.154	-0.032	0.146	-0.123	0.155	-0.048	0.145	-0.128	0.155
ρ	0.320	0.047		0.312	0.048			0.315		0.048		
Log pseudolikelihood	-2135.1				-2140.0				-2132.0			
N	729				732				730			

注) レファレンス・グループは、父親の学歴(高卒)、母親の学歴(高卒)、母親の職業(専業主婦)、子供の就学(小学高学年)、居住地(その他の地域)である。***は1%、**は5%、*は10%水準で有意。

表 7-3 母親の働く時間帯と親との食事についての分析

	母親早期(午前7時前)		母親夕方(午後7時以降)		母親夜(午後10時以降)	
	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差
父親						
父親と一緒に食事	0.084***	0.076	-0.491	0.084***	-0.031	0.076
母親と一緒に食事	-0.024	0.076	0.460	0.428	-0.457	0.418
係数	-0.524	0.279*	-0.055	0.181	0.330	0.175*
標準誤差	0.179	0.260	0.178	0.330	0.175*	0.173
無業	0.111	0.058	0.104	0.111	0.077	0.110
高校卒業未満	0.096	-0.034	0.089	0.096	-0.021	0.074
短大・大学院卒	-0.034	0.089	0.020	0.096	-0.021	-0.017
標準誤差	0.096	0.089	0.020	0.096	-0.021	0.089
母親						
ある：毎日	0.354**	0.636	0.095	0.380	-0.742	0.428*
ある：週に数回	0.197	-0.383	-0.097	0.185	-0.435	0.192**
ある：週に1回	0.376	0.114	0.362	0.278*	0.130	0.282
ある：必要な時だけ	-0.002	-0.348	0.152**	0.132	-0.064	0.113
フルタイム	0.165	-0.135	0.097	0.105	-0.136	0.101
無業	-0.169	0.087*	0.226	0.082***	-0.232	0.084***
年齢	-0.002	0.008	-0.025	0.008***	-0.026	0.008***
高校卒業未満	-0.435	0.352	-0.373	0.220*	-0.159	0.266
短大・大学院卒	-0.104	0.091	-0.114	0.085	-0.102	0.084
大学・大学院卒	-0.114	0.111	0.088	0.103	-0.131	0.104
標準誤差	0.111	0.088	0.103	0.111	0.054	0.109
子供						
女の子	0.054	-0.040	0.055	0.053	-0.039	0.055
小学低学年	0.072	-0.439	0.073***	0.073	-0.412	0.074***
小学高学年	0.090	-0.273	0.089***	0.089*	-0.273	0.089***
中学	0.123	0.096	-0.460	0.101***	-0.439	0.101***
子ども数2人	-0.200	0.095**	-0.093	0.101	-0.195	0.095**
子ども数3人以上	-0.119	0.112	-0.002	0.107	-0.001	0.107
標準誤差	0.112	0.107	-0.002	0.107	-0.001	0.107
居住形態他						
所得	-0.049	0.083	-0.026	0.064	-0.007	0.066
祖父母同居	-0.321	0.236	-0.288	0.167*	-0.318	0.163*
東京	-0.306	0.087***	0.041	0.085	-0.325	0.086***
中京	-0.483	0.145***	0.028	0.134	-0.498	0.133
大阪	-0.331	0.111***	0.119	0.104	-0.331	0.111***
標準誤差	0.356	0.036	0.351	0.036	0.118	0.104
ρ						
Log pseudolikelihood		-3659.2		-3670.0		-3657.1
N		1780		1783		1778

(注) レファレンス・グループは、父親の学歴(高卒)、母親の学歴(高卒)、母親の就業(専業主婦)、子供の就学(就学前)、居住地(その他の地域)である。***は1%、**は5%、*は10%水準で有意。

労働をしている家庭においてその父親が子供へ読み聞かせをする頻度は、父親が長時間労働ではない家庭と比較して、父親の子供への読み聞かせの頻度は変わらないことが明らかになった。しかし、表6-1より、父親の働く時間帯と、その父親による読み聞かせの頻度との関係を見ると、夕方(午後7時以降)に「毎日」働く父親や、夕方に「週に数回」働く父親は、夕方には働かない父親と比べて、子供に読み聞かせをする頻度は有意に少ない。同様に、早朝や夜に「毎日」、あるいは、「週に数回」働く父親は、子供に読み聞かせをする頻度は少ないが、統計的有意ではない。これは、働く父親の中で、夕方の時間帯に働く割合は43.7%と高いが、早朝に働く割合は11%、夜に働く割合は14.7%と低いことが影響している可能性がある。

母親が子供に読み聞かせをする頻度は、父親が働く時間帯が早朝や夕方、あるいは、夜である場合でも、父親が昼間の勤務に働く場合と比較して変わらない。すなわち、父親が昼間以外の時間帯に働いて子供に読み聞かせをすることができないので、その分を母親が子供への読み聞かせを補っているといった分析結果は得られていない。ただし、母親が、子供への読み聞かせをするために、自身の働く時間を軽くしてパートタイムや専業主婦をし、読み聞かせの時間を確保している可能性がある。

一方、表7-1の結果より、母親が、早朝、あるいは夜に毎日働く場合、子供の読み聞かせの頻度は低く、父親が読み聞かせをする頻度も低い。早朝や夜の変則的な時間に働いている母親の家庭においては、育児に対し、十分な時間をとるのが難しいと思われる。

(2) 「親が子供の勉強をみる」ことについて：

前節3.2の表4-2の結果から、父親が長時間労働をしている家庭と、父親が長時間労働ではない家庭とを比較した場合、父親が子供の勉強を見る頻度は有意に低い。しかし、表6-2より、父親の働く時間帯が早朝、夕方、夜であっても、父親と母親の勉強をみる頻度を見ると、有意な関係はほとんどみられない。すなわち、父親が勉強を見る頻度は、父親が働く時間帯よりも、労働時間の長さに左右されているということが出来る。

一方、表7-2の結果より、母親の働く時間帯が、早朝、夕、夜と頻度が高い場合、父親が子供の勉強をみる頻度が高くなるが、推定値の多くは非有意である。

(3) 「親子での食事回数」について：

表6-3より、父親が、夕方、夜の時間帯に「毎日」、あるいは、「週に数回」働くと、父親が子供と一緒に食事をする回数は有意に減る。しかし、父親が早朝の時間帯に働くことは、父親が子供と一緒に食事をする回数を有意に変えない。

一方、表7-3より、母親が早朝、夕方、夜に働く頻度が高いと、母親が子供と一緒に食事をする回数は減る。父親がその減った分を補っているようにはみえない。この場合、子供は親と一緒に食べる回数が減るだけになっている。

本節3.3の結果をまとめると下記のようになる。父親が通常の勤務時間以外に働くことが多いと、それに伴い、子供に読み聞かせをする頻度、共に食事をする頻度は下がるが、勉強をみる頻度は下がらない。これは、父親が長時間労働の場合、父親が勉強をみる頻度は下がるという結果と異なる。通常の勤務時間以外、例えば夜勤の場合は、朝食、夕食は外になりやすいが、そのかわり、昼間は家にいるため、子供が学校から帰ってくると、勉強をみることできている可能性を示している。

母親は父親に比べ、朝、夕、夜のような時間帯で働くことは少ないが、そうした時間帯で働く母親の場合、とりわけ子供への読み聞かせの頻度や子供との食事の回数が少なくなっている。この場合、母親による子供への読み聞かせの頻度や食事の回数が減ったことに対し、父親がかわりに母親の分を補っているようにはみえない。

4. 結論

本稿では、LOSEFを用いて、親の働き方と、子供の習い事、及び、子供の生活との関連性について分析を行った。

習い事をする決定要因分析によって、幼児期から小学低学年・高学年、そして中学生になるにつれて、習い事の種類のシフト(学校外活動から学校内活動へのシフト)が起きていることが明らかになった。

家庭での読み聞かせ・勉強・食事について分析を行った結果、特に注目すべきことは、父親が長時間労働の場合、子供の勉強を見る頻度、及び、揃って食事をする回数が少なく、父親が夕方の時間帯に働く場合、子供への読み聞かせの頻度が少ないことが確認できた。父親が長時間労働や夕方の時間帯に働く家庭においては、母親はパートタイムや専業主婦である割合が高く、そして、パートタイムや専業主

婦の母親の方が、子供の読み聞かせ・勉強・食事の頻度が高いことが明らかになった。すなわち、父親が仕事と生活の調和を図り長時間労働を改善すれば、子供と共に過ごす時間がより増加し、それが家庭内の家事育児分担時間において、母親の育児負担を軽減する方向へ変化させる可能性がある。

子供は成長過程において様々な事柄を経験することで豊かな感性を培ったり、他者との関わりを学んでゆく。親の就業状況は、家庭生活に影響を与えている。従って、家庭における家事育児分担の変化を促進するためには、父親の働き方を変えることにより真剣に取り組むことが必要であると考えられる⁹⁾。

なお、以上のような親の働き方に加えて、子供の育児や教育における費用の負担が重要な課題であることを、今後ますます重要になる問題として最後に指摘しておきたい。例えば、夫婦が自分たちが理想と考えている子供の数を必ずしも実現できない原因として、子供の教育や育児に費用がかかることが指摘されている(国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」)。本研究の結果からも、経済的に豊かな家庭ほど課外活動に支出しており、学歴の高い親ほど家庭で子供への関わりを熱心に行っていることが明らかになった。子供が成長する過程においては、学校以外での活動をも通じて様々な経験を積むことが豊かな人間性を育むために重要であるにもかかわらず、経済的な理由で子供の課外活動に十分な支出ができない家庭も存在する。子供への関わり的重要性についての認識も異なるかもしれない。従って、課外活動をより経済的に提供する、あるいは、子供への関わり的重要性について何らかの指導があるならば、費用の制約から理想の子供数を持っていない夫婦を支援することや、家庭教育を促進することになり、ひいては少子化を抑制することにつながる。ひいては、そうした世帯の子供の人生のスタートラインにおける情緒面での支援につながることも期待されるのである。

(一橋大学経済研究所・佐賀大学経済学部)

注

* 本論文は、科学研究費補助金・特別推進研究「世代間問題の経済分析：さらなる深化と飛躍」、基盤研究B「女性活躍の効果的推進と条件整備」の助成を受けた。本論文に対し詳細で有用なコメントを頂きました東三鈴氏、及び、一橋大学経済研究所定例研究会においてコメントを頂きました黒崎卓氏、森口晶氏

に深く感謝いたします。

1) 例えば、父親も母親も子供の読み聞かせをする頻度が「週に1回」と回答したとする。父親と母親とが異なる日にちに子供の読み聞かせをしているとみなし、「両親が子供の読み聞かせをする頻度」を「週に2回」として取り扱うこととする。しかし、両親が「揃って」子供に読み聞かせを「週に1回」している場合、「両親が子供の読み聞かせをする頻度」は、「週に1回」となる。「両親が子供の勉強をみる頻度」を「週に1回」と扱っても、推定結果は表4-1、表4-2、表4-3とほぼ同程度である。

2) 親が子供と一緒に食事をする回数をカウントする場合、父親と母親とが一緒のときは1回ではなく2回と合算するが、これは、両親が揃っていれば食事機会の密度(家族対話の濃さ)を表していると考えられるからである。(各親の食事の最大回数は各1日3回であるので、食事回数の最大値は1日6回である。)

3) 父親や母親の働き方が子供との交流時間に与える影響の推計値に対する解釈に関して注意が必要である。父親や母親の働き方と子供との交流時間は同時決定されており、また、子供との交流時間が、親の働き方に起因するのではなく、個々の親特有の(観測できない)状況に基づいている可能性もある。

4) 母親がフルタイム就業の場合でも、子供は家庭外の保育施設などにおいて家族以外の人との交流時間を持つことが可能であり、そのような保育施設を利用している確率が高い(Connelly and Kimmel, 2003)。しかしながら、ここでは、家族自身による育児の諸活動に焦点を合わせて分析を進める。

5) Gimenez-Nadal and Molina(2013)は、両親の教育水準と育児への時間について、イギリスとスペインのデータを用いて検討している。その結果、母親の学歴が高い場合、イギリスとスペインの双方で、父親による子供への教育時間が増加する、及び、スペインでは母親による教育時間が増加することが明らかになった。しかし、父親の学歴とは関連がみられず、子供への教育時間に対する時間配分との関連は、母親の学歴によるものが大きいことを明らかにしている。

6) 母親がフルタイムで働く家庭では、そうでない家庭と比較して、家庭での父親母親合計しての子供の勉強をみる頻度は少ない。一方、表2の分析より、母親がフルタイムで働く家庭において、親が子供の勉強をみることの代替材と考えられる学習塾や通信添削の利用が増えていない。母親がフルタイムで働く家庭においては、もともと、子供の教育に対する関心が相対的に高くない可能性が考えられる。あるいは、学習塾や通信添削と親の学習指導は、それらの家庭において必ずしも代替材とみなされていないのかもしれない。

7) 長時間労働をしている父親の家庭においては、母親が専業主婦の割合は34.3%、パートタイムの割合は47.5%が、フルタイムの割合は18.1%であるのに対して、長時間労働をしていない父親の家庭においては、母親が専業主婦の割合は31.3%、パートタイムの割合は42.5%が、フルタイムの割合は26.2%である。

8) Craig and Powell(2011)は、平日の夕方・夜間の就業、土曜日・日曜日に仕事がある場合のような特殊時間業務がある場合における家事・育児時間に対す

る影響を検討している。その結果、両親ともに標準的な就業形態に比べて特殊時間業務の親は仕事時間が長く、家事・育児の時間が短いことが分かった。

9) Kobayashi and Usui(2015)により、父親がフレックスタイム制のような柔軟な働き方をすることで、母乳育児をする母親が多くなり授乳期間も延びることが確認された。

参考文献

- 国立社会保障・人口問題研究所『第14回出生動向基本調査』
内閣府『食育白書』(平成24年版).
小塩隆士(2013)『社会保障の経済学 第4版』日本評論社.
白井恵美子・小林美樹(2013)「子供の課外活動と母親の学歴および就業」『年金と経済』Vol. 32, No. 2, pp. 26-37.
Connelly, R. and Kimmel, J. (2003) "Marital Status and Full-time/Part-time Work Status in Child Care Choices," *Applied Economics*, Vol. 35, No. 7, pp. 761-777.
Craig, L. and Powell, A. (2011) "Non-standard Work Schedules, Work-family Balance and the Gendered Division of Childcare," *Work, Employment and Society*, Vol. 25, No. 2, pp. 274-291.
Gimenez-Nadal, JI. and Molina, J. A. (2013) "Parents' Education as a Determinant of Educational Childcare Time," *Journal of Population Economics*, Vol. 26, No. 2, pp. 719-749.
Heckman, James (2013) *Giving Kids a Fair Chance*, MIT Press.
Heiland, Frank, Joseph P. Price, and Wilson R. (2014) "Maternal Employment and Time Investments in Children," *Review of Economics of the Household*.
Kobayashi, M. and Usui E. (2015) "Breastfeeding Practices and Paternal Employment in Japan," *Review and Economics of the Household*, forthcoming.
Matsuoka, Ryoji, Makiko Nakamuro and Tomohiko Inui (2015a) "Emerging Inequality in Effort: A Longitudinal Investigation of Parental Involvement and Early Elementary School-aged Children's Learning Time in Japan," Forthcoming *Social Science Research*.
Matsuoka, Ryoji, Makiko Nakamuro, and Tomohiko Inui (2015b) Examining Elementary School Children's Extracurricular Activity Participation and Their Non-cognitive Development Using Longitudinal Data in Japan, ESRI Discussion Paper, No. 318.
Nakamuro, Makiko, Ryoji Matsuoka, and Tomohiko Inui (2013) More Time Spent on Television and Video Games, Less Time Spent Studying? RIETI Discussion Paper Series, 13-E-095.
Nakamuro, M., Inui, T., Senoh, W., and Hiromatsu, T. (2015) "Are Television and Video Games Really Harmful for Kids?" *Contemporary Economic Policy*, Vol. 33, No. 1, pp. 29-43.
Oshio, T, Sano, S. and Kobayashi, M. (2010) "Child Poverty as a Determinant of Life Outcomes: Evidence from Nationwide Surveys in Japan," *Social Indicators Research*, Vol. 99, No. 1, pp. 81-99.
Trelease, Jim (2013) "The Read-Aloud Handbook," Seventh Edition, Penguin Books.